



森のなかま

2011年11月号

NO. 43 (継続188)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成23年度 全国育樹活動コンクールの入賞を祝して

神奈川県自然環境保全センター 森林再生部水源の森林推進課

平成23年度全国育樹活動コンクールにおいて、国土緑化推進機構理事長賞の受賞おめでとうございます。

公益社団法人「国土緑化推進機構」では、森林及び樹木の保護・保育を推進して活力ある森林造成を進めることが国土緑化運動を進めるうえで極めて重要であることから、昭和54年以降、毎年このコンクールを実施し、全国育樹祭において受賞者を表彰し、育樹活動の重要性を普及・啓発しています。

本年度は、特定非営利活動法人「かながわ森林インストラクターの会」を含め、全国から8団体、8名が入賞の栄誉に輝きました。

表彰式は、平成23年11月20日(日)に 奈良県奈良市佐紀町「平城宮跡」において開催される「第35回全国育樹祭」の式典の中で、皇族殿下ご臨席の下、行われます。

このコンクールの参加の条件は、「地域の育樹活動の普及、向上に著しい実績をあげたもの」とされており、今回の受賞は、県、財団法人「かながわトラストみどり財団」との連携、協力により、森林・林業についての知識、理解の普及と県民参加の森林づくり活動における指導・支援に、貴会が積極的に取り組んできたことが高い評価を受けたものと確信しています。

今後、かながわの森林再生の取組を、県民協働により進めていくためには貴会が今までに培ってきた指導力、組織力、実行力が欠かせないと考えており、これを契機として一層の活動の充実、発展に取り組まれることを期待いたします。

第61回全国植樹祭風景



写真：広報部（鈴木松弘）

水源の森林づくり街頭キャンペーン 9/24(土)～25(日)

秦野たばこ祭とタイアップ出展

上宮田 幸恵<11期>

たばこ耕作者の慰労会を目的に昭和23年10月に開催された第1回から64回(64年目)県内外から毎年20万人以上の方が訪れる市民参加型の大会。去る夏を惜しむかのような暑さの中、町全体がお祭ムードである。

初参加の昨年に続き、2回目の参加の今年も早朝から資材一式を搬入・設置と奮闘しインストラクターは集合時間の9時を待たずに全員集合した。桜美林大学 エコトップ PGから4名の学生さんの参加で・平均年齢も一気にさがりテンションはアップ!

一日の役割分担の説明後、記録・受付・紙芝居・丸太切り・工作・募金・グッズ販売と各担当ブース毎に分かれ、打ち合わせをしてスタンバイ。

受付担当者の呼び声とともに、来場者が集まってくる。緑の募金、ガラガラコーナーからは早くも歓声があがり、1等賞?に喜ぶ。第1のブース<森林保全の紙芝居・神奈川県森林についてのクイズ・水源涵養機能実験コーナー>ここでは紙芝居を見ながら、神奈川の森林の面積、森林の様子、雨水の行方、県木など森の様子をクイズ形式で楽しんでいただき、木が茂る土地(森林)と土だけの土地に降る雨の流れ方の違いを実体験する。

第2ブースは<丸太切りコーナー>初めて鋸を使う子意外と得意な子、一生懸命きり落とした個片を持ち、



お隣の最終ブースへ 最終ブースは<木の実を使った工作コーナー>そこにはどんぐりなどの森からの恵があふれ、切り落とした土台に思い思いに装飾(ボンドで接着)し、世界で一つのどんぐりトトロが出来上がる。

一連のコーナー終了まで約1時間!来場者からは大満足の様子が見て取れた。会場の大音響にかき消され、紙芝居の声が行き届かなかった点が反省されるも、インストラクターのパフォーマンスは終始全開で、今につながる先人の思いと重なる。太陽に向かって高く伸びるたばこの花からも、その姿を想った。

大塚 晴子<11期>

秦野たばこ祭は親子連れが多く、体験型のかながわ森林インストラクターブースはとても好評でした。お子さんはクイズや丸太切り、どんぐり工作に夢中になって作業していました。

グッズ販売は大盛況で売り切れになるグッズも多く、抽選付き募金もたくさん集まりました。参加者に満足してもらえ、安全で楽しく作業でき、とても良いイベントとなりました。

秦野たばこ祭データ

24日(土) 9時～17時 参加者 大人196名・子供280名 晴れ

25日(日) 10時～17時 参加者 大人202名・子供204名 晴れ

財団 豊丸/内海課長 **インストラクター**; 24日 L足立④、菊地①、米本②、高橋③、宮本④、森本⑤、坂齋⑦、渡部⑦、山崎⑦、内野⑨、村井⑨、中島⑨、時田⑩、牧野⑩、上野⑩、尾崎⑩、大塚⑩、松本⑩、上宮田⑩、(桜美林大ECO・林、岡部、佐々木、林) 25日 L森本⑤、菊地①、米本②、落合③、竹島③、足立④、宮本④、伊藤⑦、渡部⑦、内野⑨、高橋⑨、中島⑨、村井⑨、青木⑩、上田⑩、小笠原⑩、大塚⑩、(桜美林ECO・林、岡部、佐々木)

第2回やどりき水源林周辺の山歩き 飯澤 恒<9期>

写真提供* 水口俊則⑨ / 福島孝弘⑨

雨山峠にイワシャジンを訪ねて



イワシャジン

檜岳にて



9月30日、寄入口から水源林ゲートへ向かう道路で、前の週に神奈川各地で多くの被害をもたらした台風15号の影響で太い枝が折れた木や根こそぎ倒れている木があちこちに見られた。この様子では登山コースもかなり荒れていることが予想され、もし危険な状態であったら途中で引き返す可能性もあることを確認して雨山峠のイワシャジンをお目当てに9時半頃管理棟前を出発した。一行10人に、たまたま同じコースのクマ調査で山の木の実の豊凶状態を調べる滝澤さんも同行することになった。

寄沢の水量は大分減っていたが橋は流失し流木2本を渡したところ、1本の流木が橋になり倒木が手摺になったようなところをバランスを取りながら渡った。またそうした流木の無いところは飛び石で渡れるところを探して渡った。登山道も栈道や路肩が崩れて崖になっている所、細い背になった鎖場、鉄製の階段の手摺が壊れたり登り口が大きく宙に浮いたりしている所等を注意深く慎重に通過した。

朝、家を出る時は晴天で予報通りの夏日が予想されたが、出発の頃から曇り空に変わり、気温はそれ程高くないようだったが湿度が高いようで半袖1枚でも汗ビショリになった。雨山峠に向かう途中の登山道ではシラヤマギク、ノコンギク、アキノキリンソウ、ハンカイシオガマ、ホトトギス等の花を観賞し、アケビや食べごろには少し早いサルナシの実を味わったりしながら登り寄沢上流の水量の

少ない沢を登る辺りからシラヒゲソウの群生を観察することが出来た。図鑑によると、この花は山間の湿った岩や、流水沿いの湿地に生えているが、最近ではあまり見かけることがないとのことで、花の独特な可愛らしさのためか持ち去られることが多いのだろうということであった。沢を離れ雨山峠に近づくときダイモンジソウと今回山行のお目当てのイワシャジンが出現した。イワシャジンは雨山峠から雨山へ至る道の両側、崖の至る所に咲いていて稜線を吹く風に揺れ丁度見頃であった。昨年も同じ時期にこのイワシャジンを見に行く山歩きを計画したが、雨で中止になっただけにやっと念願が叶った思いがした。花の咲く時期は年によって変わることが多く上手く見頃にあたるのは難しいことなのだが、堀江さんの毎年の山行記録でこの日は間違いないと予測して3月に立てた計画であったが見事に的中した。

雨山の山頂で昼食となったが霧が濃く立ち込めていて展望が悪い上に寒かった。おまけに夏日の予報を信じて冷たい飲み物を用意してきたがこの時ばかりは、暖かいカップめんや熱いコーヒーを飲食している者が羨ましかった。昼食後、全員で記念撮影をして霧の中を檜岳に向けて出発した。途中の10m先も見えないような濃霧の中のブナ林は幻想的だった。檜岳でも記念撮影をしてここからは作業道を下り中沢橋の袂に出て林道を寄大橋に向かい橋の袂の駐車場で14時半頃解散した。水源林を離れ松田町に近づくとき下界は暑い夏日であった。

寄沢の渡り

雨山から檜岳へ



私の認識

野鳥その93

高橋 恒通

今月もフクロウ目フクロウ科の留鳥または冬鳥のトラフズク（漢和名：虎斑木菟、英名：Long-eared Owl、体長L=38cm）についてご案内いたします。

体色は♂♀ほぼ同色ですが個体差（個体実変）が大きく、従って標準的な体色を明記できません。一般的には、茶褐色、黒褐色、灰色が頭部から上背面に複雑に混じり合った模様を呈しております。また喉下から胸前、体下面も灰褐色地に暗褐色の縦斑が一羽一羽それぞれ模様が異なって混じり、然も地の色も灰褐色が濃く出たり淡く出たりバラバラです。

トラフズク同定の最大のポイントは、我国で観察できるフクロウ科の仲間では最も大きく長い“羽角”だと認識しております。

英名の Long-eared Owl の直訳は“長い耳のフクロウ”ですので、正しく＜名は体を現している＞訳です。

この長い羽角は、周囲を灰色の羽毛で縁取られた黒褐色の角の



トラフズク

様ですから、ひと目でそれと判ります。覚えておいて下さい。

次のポイントは虹彩が橙色をしている点です。

フクロウ科の野鳥は基本的には夜行性ですので「夜目が利く」事が不可欠です。従って丸くて大きな目、そして光の加減で瞳孔が開いたり閉じかかたりします。その時には瞳孔を取り囲む虹彩

の色合いが大変に印象的な存在となるものと私は認識しております。

因みに前稿のコミミズクの虹彩は黄色、フクロウのそれは黒褐色です。

トラフズクの棲息環境は、山地の林、川原、農耕地や草原です。

夕暮れから活動を始め、ネズミを好みますが、鳥類をも襲うそうです。勿論、羽音は立てず飛び、ホバリング（停空飛行）もします。

繁殖期の夜間に♂♀共に、“ポーオ”とゆっくりしたテンポで鳴き交わすそうです。

繁殖は本州中部以北の林で、タカやカラス等の古巣も利用して行い、越冬は本州中部以南で行うと言われてます。

昼間は山里の林や公園など木の茂みの枝に止まり夕方まで休んでおります。越冬の時期には数羽～十数羽が一緒にまとまっているケースがまみられます。

最近ですと、昨年平成22年（2010年）の冬、確か2月の中旬、森林インストラクターの同志から、「JR相模線の宮山駅の近くの小さな公園のクスノ木に数羽のトラフズクが来てるので見に行ったら・・・」と電話を貰い早速、双眼鏡片手に現場へ駆けつけてみると、既に望遠レンズ付きカメラを三脚にセットした数人（女性も2人混じって）がたむろしていました。

今にも降りそうで、そして寒い日であったにも拘らず“鳥撮り”の熱中人達の行動力には、いつも乍ら感心させられました。

トラフズクは1本のクスノ木に5羽、その隣のクスノ木に1羽、計6羽おりました。

但し、真下から見上げる角度からの5羽は枝に分散した黒っぽいシルエットでフリーズした状態でした。でも首は痛くなるし詳細は判らずで、隣の木の1羽はやはり見上げる角度でしたが低い枝でしたし、時折下を見る如き動作があり、長い羽角がハッキリと確認できました。私の認識では、トラフズクは滅多に逢えない野鳥ですので、「寅年にトラフズクに逢えてラッキー」であり、同志に深謝です。

尚、羽角を“耳羽<ジウ>”と表現した図鑑もありますので覚えておいて下さい。

<参考資料>

- ◎日本の野鳥 山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安直哉、解説（鳴き声）/ 上田秀雄、山と溪谷社
- ◎フィールドガイド日本の野鳥、野鳥ブックス② 高野伸二著、（財）日本野鳥の会
- ◎日本の野鳥、フィールドガイド1、竹下信雄著、小学館、
- ◎イラスト トラフズク 大塚晴子（広報部）

3期の高橋恒通氏の「私の認識」フクロウシリーズ*次回はワシミミズク、次はアオバズク、そして、シマフクロウと続きます。また、イラストは11期の大塚晴子さんが担当しています。長期連載「私の認識」を、ご期待ください。 広報部

本の紹介

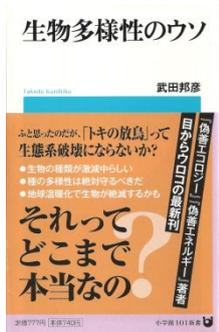
生物多様性のウソ

武田邦彦 著

活動短信

7/23~10/1

堤 洋<8期>



「生物多様性の保護保全」が話題になっている折に、その偽善性を追求された本です。紹介している私は今でもなんとなく納得は出来ないものの、書かれている事実に対して、目を開かせるものがあります。自分一人で考えるより、読者の意

見も拝聴したいので敢えて紹介しました。

最初の話題は「トキの保護」です。トキの側に立って見ればトキは絶滅させて欲しいと考えているかもしれないと著者は言います。これは一般の意見とは対立するものです。しかし、地球起源から紐解いて生物種の変遷を説明されると何と無く納得できるのが不思議です。

本は全4章構成で第1章が地球起源の生物種の変遷であり、生物種の増減は不明瞭であるが、結論として「生物が多くても少なくても『地球』には関係ない」むしろ現在は「生物種の多い時代である」と述べています。

第2章は「絶滅なくして進化なし」にトキは絶滅した方が良くと考えているとまで書き込んでいます。

第3章では「生物多様性の利権の裏側」で著者の知る利権の構造をまとめており「生物多様性」と言う言葉が何故環境活動家を動かしたのか。風評に対する冷静な判断を求めています。人間に「未来予測は出来ない」とまで言い切っています。

更に第4章では「地球温暖化」と「生物多様性」を取り上げ筆者なりの結論を見出しています。世間でいう「地球温暖化」と「生物多様性」の議論の中の矛盾を論じているし、「環境破壊は日本に無かった」と述べています。

最後に「人間活動による生物の絶滅は、人間の活動によるという点で環境破壊になりますが、それが人間に被害を与えるかという観点から見れば環境破壊ではないと考えられます」つまりは、一側面から見た場合にはと言う前提で考えればということであり、生物多様性の議論も欧米の都合の良い前提の下で考えられているようであり、地球温暖化についても冷静な議論を求めているように思いました。(小学館101新書 740円+税)

「DENSEAあんしんの森」

水生生物観察会&木工クラフト体験

7月23日(土)9時20分~14時半

やどりき水源林

121名(大人62名、子供59名)

自環保水源の森林推進課 森、

L森本⑤、足立④、斉藤⑥、伊藤⑦、山崎⑦、渡部⑦、中島⑨、

土砂の大量堆積やトイレの断水など、台風6号の爪跡が色濃く残っていたが、日立電サ・自環保・松田町森林組合の頑張りですぐに復旧出来たのは嬉しい限り。

参加者は、日立電子サービスと日立情報システムズの社員家族。午前中は水生生物とクラフトの両方を、午後は、水源林のミニ散策を体験した。

水生生物の観察は、台風の後だけに少し苦戦。クラフトはワークショップ形式で、どんぐりトトロ、ミニ下駄(ポックリ)、ウグイス笛、シュロバッタ等を展開した。やはり、鳴り物のウグイス笛は特に好評だった。

電サの充実した企画(鹿シチュー、冷やしスイカ、カブト虫配布)により、全員がやどりきの夏を満喫。クラフトの完成品と、今日の思い出を作文にすることで、夏休みの宿題解決に大いに寄与したのでは、と思った。(記5期 森本)

「夏休み子ども天国2011」

7月24日(日)11時~16時 晴れ

主催 藤沢市 善行公民館

参加 小学生31名(一般市民対象クラフト教室)

I 森林文化部会運営委員11名、井出①、米本②

落合③、白畑⑦、松村(俊)⑧、斉藤⑧、

内野⑨、高橋⑨、中元⑩、小笠原⑩、真貝⑪、

例年、夏のクラフト教室は当方で募集して開催していたが、今年度は公民館の夏の子供向けイベントに参加するという形で行った。

「夏休み子ども天国」には11講座あり各自が選んで申し込みを行うものである。クラフトの他には料理、ダブルダッチ、マジックetcがあり、クラフトには51名の希望者がいたが会場等の都合で抽選で31名が参加した。

暑い日であったのに関わらず子供達は開始時間には全員が集まっていた。紙芝居で水源林についての話を行う。水鉄砲、木の実のオブジェ、竹笛、ミニ下駄の4グループに分かれ製作を始めた。作業の合間にヒノキの丸太切りも体験した。ほとんどの子が鋸や小刀を最初は危なっかしい手つきで持っていたが作品が出来上がる頃にはだいぶ上達してきた。

最後に木の実を展示して木の話を行った。どの子も作品を大切に持ちながら帰路に着いていた。

子供達の一言感想:

3年女子 木を切るのが楽しかった。1年女子 自然で作れて良かった。1年男子 最初は慣れなかったけれど段々慣れた。(小刀) ほとんどの子供が又作りたいと書いてあった。(記10期 小笠原)

森林癒し&除間伐&水生生物観察

- 日** 8月6日(土) 9時~13時 晴れ
場 やどりき水源林
参 タカナシ乳業(株) 53名 中原環境対策部次長他 桜美林大エコトッ研修生 3名
イ L高崎④、竹島③、森本⑤、坂齋⑦、谷津⑦、草野⑧、時田⑩、吉田⑪、

主たるテーマ：国土緑化推進機構の募金事業の一環として、タカナシ乳業(株)連携・協力の下、「溪畔林の整備と癒しのフィールドづくり」として実施。

指導内容：午前は、①森林癒し体験、②除間伐、③水生生物観察を、希望をもとに併行実施した。その他、事業実施を表示した看板披露も行った。また、開会時・昼食時には、緑の募金事業の説明及び、実際の募金活動も行った。

午後は足柄乳業へ移動し、工場見学・バターづくりを実施。(インストラクターは午前のみ)

感想他：今回は、緑の募金事業の連携・協力団体参加の最終事業だった。主協力団体のタカナシ乳業(株)さんには大震災に関わる少なからぬ困難な状況の中、2回目の参加協力を戴いた。折り良く看板披露を実施することが出来、記念の撮影も行った。ささやかな感謝の意を伝えることが出来たであろうか。

本活動へは、桜美林大学エコトッ研修生も3名参加した。午前の3活動や募金活動を体験研修してもらったが、前向きに取り組んでいた。

(記 4期 高崎)

コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクト

- 日** 8月7日(日)
場 宮ヶ瀬湖畔園地
参 96名(大人47名、子供49名)
スタッフ コカ・コーラ社員多数
イ L相馬⑤、渡辺③、内野⑨、大沢⑩、松本⑪

「森に学ぼう」プロジェクトは次世代を担う青少年とその保護者を対象に、自然環境を保全することがいかに大切かを知るきっかけの場を提供することを目的に毎年コカ・コーラが取り組んでいるイベントです。参加者は、カヌー体験・自然観察・森林保全体験の3つ会場を巡り、様々なことを学びました。森林保全体験を担当した私たちは、下草刈りと枝打ちを指導しました。下草刈りは萱場のようにススキの生い茂った所で行い、大鎌を使うのは初めてという人がほとんどでしたが、上手に楽しそうにやっていました。枝打ちはクヌギなどの広葉樹でしたが、こどもの手が届くところは既に終わっていて、枝がないような状態でした。

主催者は塩水や虫よけスプレーを準備、全員にスパッツを配るなど細やかな配慮をされていましたが、ヤマビルを防ぎきれませんでした。以前の活動で一緒だった母娘と再会し覚えていてくれたので嬉しかったです。(記 9期 内野)

パートナー林の保全活動

- 日** 8月20日(土) 10時~15時 晴れ
場 やどりき水源林
参 日揮(株)社員と家族10名 佐藤恭平氏(日揮社員)・1期
イ 高崎④

主たるテーマ：水生生物の観察とクラフトワーク

指導内容：午前 やどりき水源林後沢で水生生物観察。

午後 集会棟横作業スポット上で、丸太等を利用したクラフトワーク

感想他：全般的に家族的雰囲気の中、楽しく充実した活動が出来た。

午前の水生生物観察では、子供の夏休みの自由研究に資するためか、インターネットを利用して事前研究してきた家族もいて、熱心に取り組めた。

午後のクラフトワークでは、これまた、当活動を主目的に参加した子供がいて、小生が手持ちのサンプル・用材も提供して楽しんでもらった。

上記の事から、プログラムをアドバイス・決定するにあたっては、可能な限り多様なプログラムを提供できるよう心がけるべきだと思った。

(記 4期 高崎)

県民参加の森林づくり体験講座(下草刈り)

- 日** 8月25日(水) 9時半~12時 雨
場 やどりき水源林
参 一般県民29名(応募40名)
財 豊丸、永島、**看** 青木
イ L橋本⑩、高橋③、武者⑦、松本⑧、三浦⑧、柴⑪、**研** 野牛⑧、

当日の天気予報は朝のうち雨、午後に向け曇り~晴れであり、予定どおり実施となった。しかし、当日朝から引き続き雨で、急遽当日のスケジュールを変更し、まず最初に、林業家からのメッセージの講演を川又正人氏にお願いすることにした。水源林の休憩棟で行われた川又氏の林業の実際や使用道具、シカの食害問題など幅広い話題に触れられ、さらに、氏が持参した裸地と植物被覆地での簡単な降雨実験で得られる雨水の量と水の清浄さなどを比較し、参加者の約1/3が高校生であったが、彼らにも強い印象を与えた。依然として雨足が強く、引き続き、各班に分かれてインストラクターとの自由対話会となり有意義な時間を持てた。12時頃やどりき水源林を離れる頃に雨は小止みとなった。(記 10期 橋本)

神奈川県森林インストラクター12期生養成講座(自然観察)

- 日** 9月4日(日)
場 やどりき水源林
財 古舘、榎山、
参 神奈川県森林インストラクター 12期生 30名
イ L野田⑧、高崎④、女川⑨、内野⑨、杉崎⑩

神奈川県森林インストラクター12期生養成講座での自然観察の指導。

午前：担当する場所の下見をリーダーとともに行なう。午後：下見をした場所の説明を自分の班の人たちに説明する。その後リーダーによる講評。

殆どの方が下見時にリーダーが説明したとおりに話を進めようとするので、持ち時間15分では説明が終わらず大幅延長となった。しかし、聞いたことを鸚鵡返しすることは覚えるためには非常にいいこと。しかし、持ち時間を考えて取捨選択して欲しいです。

最後にリーダーより下記の話で締めくくる。

1. 身の回りの自然にも目が向くようになり、常に「なぜ」「どうして」との疑問をもって自然に向き合っていて欲しい。自然のからくり、植物の知恵・工夫が見えてきて説明の材料が増える。
2. さらに、資格習得後、知識が少ないのでもう少し勉強してからとデビューを伸ばしているとデビューする機会を失う。そこで、資格取得したらすぐに目をつぶってでもデビューすること。そして、経験を積みながら勉強するほうがよほど身に付く。

大型台風の余波を受け、曇り時々雨のあいにくの天候の下での養成講座となりましたが、水源林までの道も問題なく、無事に終了することができました。講師の皆様ありがとうございました。

(記 8期 野田)

パートナー林保全活動(間伐)

日 9月9日(金) 10時～13時 晴れ
場 やどりき水源林
参 三菱重工業(株)相模原製作所 25名
県 自環境水源の森林推進課 内田
イ L福島⑨、斉藤⑥、飯澤⑨、

三菱重工業(株)新入社員教育におけるCSR活動教育の一環としての森林整備作業。

まず、同社総務・環境課から「CSR活動における企業の森林づくり活動」県・水源の森林推進課から「かながわの水源の森林づくり事業」、インストラクターから「水源林の機能」についての説明が行われた。続いて、間伐について、その目的、種類、進め方、作業手順等をインストラクターから説明の後、三班に分かれ間伐作業に入った。引率スタッフの方以外は皆、初めての経験との事であったが、約2時間弱の作業に苦勞と共に身体を使う事の喜びも感じておられるようであった。

(記 9期 福島)

県民参加の森林づくり

日 9月10日(土) 8時～13時40分 晴れ
場 山北町世附上ノ山
参 一般応募者 60名
山北町森林組合 鈴木
財 豊丸、永島、**看** 青木
イ L福島⑨、佐藤恭①、長谷山③、加藤逸⑥、戸谷⑥、有坂⑧、内野⑨、篠原⑨、大澤⑩、後藤⑩、宮下⑩、柴⑩、真貝⑩、徳岡⑩、

福島⑩、湯浅⑩、**研** 大橋⑩

晴天の下、丹沢湖を眼下に望む道路脇にてオリエンテーション、準備体操、身支度を行った。作業現場は、前年、前々年の現場の西隣で道路のすぐ横から始まってはいるが、最上部区画を受け持つ班はそこに到着するまでにかかなり息切れをするほどの急傾斜である。40年生のスギ林であるが、今まで手入れされていない為、枯れ木が多く幹の折れ、落下の危険性が高く、また、太さの割には樹高あり伐倒時の合図。周囲作業者との距離に注意を要した。9月に入ったとは言え、残暑厳しく汗でびしょりとなったが、事故、怪我もなく無事作業を終えたことは何よりであった。(記 9期 福島)

下草刈り&除伐(座間市主催)

—自然保護思想啓発活動—

日 9月16日(金) 9時～13時 曇り一時雨
場 座間市栗原地区内 芹沢公園
市 座間市公園緑政課 江原係長、遠藤氏他8名
参 一般市民 19名
イ L斉藤⑥、友谷①、

座間市の恒例(11回)になっている標記募集の参加者による公園内自然林の除伐と下草刈りが行われた。今回もリピート参加者が多く、セレモニーや用具の手渡しも実に手際良かった。

顔見知りというか、仲間達のように作業も整理も見事であった。藪蚊の襲来を受けながらも定刻に終了。用具の手入れの後、1時間林内を自然観察し自分達が今、間伐した林を眺め手入れの必要性を痛感したようだ。

昼食をとりながら青空森林講習会(斉藤が30分)は森林と人との係わり(里山、山地、奥山の今昔)特に農作業の中で二次林や、極相林として山の管理が行われていたことを話した。

最後に課長より一人一人にボランティア参加証明書が手渡され、来年への参加の呼びかけで無事終了した。(記 6期 斉藤)

水源林保全体験(下草刈り)

日 10月1日(土) 8時45分～16時半
場 イタリアー水源林(箱根町仙石原)
参 一般応募 32名(大人20名、子供12名)
スタッフ 県・企業庁サービス協会 内田、米澤、
森林組合 1名 **看** 青木
イ L飯澤⑨、金森⑩、酒井⑩、大塚⑩、

県営水道利用者に水源林保全のための取組みを通して、水資源の大切さや水道事業への関心を深めていただくことを目的にイタリアー水源林の草刈りを実施した。厚木からガイド付きの観光バスで東名高速を通り御殿場経由で仙石原のイタリアー浄水場に行き場内の道沿いの草を刈り取った。草刈りは30分程で残り残りの時間は自然観察、箱根湧水の集水設備を見学した。その後、浄水場の膜濾過施設を見学し、箱根ビジターセンターに移動して昼食を取り1時間程休憩した。その後県立生命の星・地球博物館に移動し、ここで1時間半程見学して、小田原厚木道路で厚木に戻り解散した。インストラクターにとっても楽しい1日だった。(記 9期 飯澤)

**やどりき水源林
ミニガイド**

10月のトピックス

森林文化部会主催「間伐材利用のベンチづくり」の作品が、やどりき水源林集会棟広場に設置されました。ご利用ください。



11月の水源林

「成長の森見学会」(3日)と4社のパートナー企業様が森林保全活動で水源林を賑わします。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)

●集合：水源林入口ゲート前
●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

木工体験教室 11/20(日)～27(日)
受付時間：9時～15時半
“ヒノキのマイ箸と
柿渋染めの箸袋づくり”

かんな削りで、ヒノキの箸をつくり、焼きごてで、名前も入れよう!

日本の伝統的な塗料“柿渋”で柿渋染めの箸袋をつくらう!

*小学3年生以上、先着32人(当日受付)
箸=200円/袋=300円

県立21世紀の森管理事務所
電話：0465-72-0404

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp
Tel:0467-52-2191

送り先

<①電子配信担当> 森 義徳
〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784

Mail:shinrin.inst.denshihaishi@gmail.com

<②メール・手書き原稿送り先>
【本誌】村井正孝
〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp
【別冊】水口俊則
〒250-0871

小田原市下堀123
Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minagold109@plum.plala.or.jp
【CCで】竹島 明
〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7
Tel/Fax:046-825-9281

Mai:nahemi0818@jcom.home.ne.jp
原稿は随時受け付けています。

編集後記

★先週、那須三斗小屋に入った。平日、深閑とした付近は人居らず、紅葉錦秋、あっと驚き声も出ず。熊君の多出没地帯、おっかなびっくり、絵本のように、熊さんとあぐらをかきながら酒を飲みたかった。そんな夢をみながら、鈴をガンガン鳴らし、まったく人と会わない、旧会津裏街道(山道)は、素晴らしい日本の山の秋の思い出となった。(鈴木松)

★これから紅葉が見頃ですね。夏の暑さで運動不足だった身体を紅葉狩りで楽しく歩き周り、引き締め様と思っています。(水口)

★一歳半の孫娘、英語も日本語も理解し行動する。私の英語力はなぜ進歩しないのか?(小沢)

★今月号の表紙は悩みました。やどりき水源林のつどい、成長の森観察会と相次いでまさかの雨天中止。11月20日に「国土緑化推進機構理事長賞」の受賞に於いて大変尽力頂いた自然環境保全センター 森林再生部水源の森林推進課の内田様に月末に向かってご多忙とは思いつつメールでお願いし、電話でもお願いしてみました。上司の西口課長と相談され、3日間で西口課長から寄稿して頂きました。本当に有難う御座いました。毎月発行の会報駅伝のたすきが断ち切れずにホッとしています。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

鈴木 朗 鈴木松弘

天野里美 大塚晴子

神奈川の森林保全活動ご苦労さま～です。



山麓のオアシス お食事処

お気軽にお立ち寄りください。

こまち

小田急線・新松田駅踏切際

緑の募金箱協力店